

学科	職業実践専門課程 ビューティーアーティスト科	担当教員	唐沢・川添		
科目名 (授業名)	美容理論（メイク）				
開講年度	2026年度	学 年	1	実施時期	通年
授業形態	演習	必修・選択の 別	必修	単位数 (時間数)	2 (6)
教育目標・ね らい	メイク技術の基礎となる理論を学び、理論に基づいた正確な技術の習得を目指す				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1	1. メイクアップ概論・メイクアップの道具 2. ゴールデンプロポーション		1. メイクアップアーティストとしての心構え や道具の種類を理解する 2. ゴールデンプロポーションの比率を理解する		
2	1. メイクアップと色彩 2. スキンケア 皮膚の構造		1. 色の色相、明度、彩度を理解する。 2. 皮膚の構造と肌別のスキンケア方法を理解する		
3	メイクテクニックメイクテクニック（スキンケア、コントロールカラー、ファンデーション、アイブロウ、アイシャドウ、アイライン）		スキンケア、コントロールカラー、ファンデーション、アイブロウ、アイシャドウ、アイラインのメイクテクニックを理解する		
到達目標	メイクアップ（顔のプロポーション,色彩, 皮膚の構造）の基礎知識が理解できている				
評価方法	期末実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「美容技術理論2」（日本理容美容教育センター指定教科書）				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	職業実践専門課程 ビューティアーティスト科	担当教員	唐沢・山田		
科目名 (授業名)	美容理論（ネイル）				
開講年度	2026年度	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	演習	必修・選択の 別	必修	単位数 (時間数)	2 (4)
教育目標・ね らい	メイク技術の基礎となる理論を学び、理論に基づいた正確な技術の習得を目指す				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1	ネイル概論・爪の構造と働き・爪や皮膚の病気とトラブル		ネイルの歴史やネイルの技術体系、爪の構造と働きを理解し、適切なサービスを提供するうえで、皮膚の病気やトラブルを理解し、施術のが可能かどうか適切な判断ができるようにする		
2	リペア・イクステンションの用具・用材と使用目的		リペア・イクステンションで使用する用具・用材の使用目的を理解する		
到達目標	ネイル概論を理解し、ネイリスト技能検定試験３級筆記試験８０点以上の知識を習得する。				
評価方法	期末実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	JNAテクニカルテキスト ベーシック				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	職業実践専門課程 ビューティーアーティスト科	担当教員	唐沢・渡辺		
科目名 (授業名)	美容理論（日本髪・着付）				
開講年度	2026年度	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	演習	必修・選択の 別	必修	単位数 (時間数)	2 (5)
教育目標・ね らい	メイク技術の基礎となる理論を学び、理論に基づいた正確な技術の習得を目指す				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1	日本髪について		日本髪の由来、各部の名称、種類と特徴、装飾品を理解する着付理論		
2	着付理論		着付けの目的、礼装、着物と季節、着物の種類、帯、小物、着物各部の名称を理解する		
到達目標	美容師国家試験において、日本髪、着付けの出題内容が理解できる 着付け、日本髪の基本知識を説明することができる				
評価方法	期末実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	日本髪・着付け理論プリント				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	職業実践専門課程 ビューティーアーティスト科	担当教員	村田		
科目名 (授業名)	美容理論（化粧品検定2級）				
開講年度	2026年度	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	演習	必修・選択の 別	必修	単位数 (時間数)	2 (10)
教育目標・ね らい	美容部員として必要な手技や知識を学び企業人としての見識や教養を深める。				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1	皮膚・肌について知る		皮膚の構造を知り、各々のはたらきを理解する		
2	肌の手入れ		肌に起こりうるトラブルとその正しい手入れ方法を理解する		
3	メイクアップの基本テクニック		一般的なメイクの手順と肌悩みに応じたメイクの手法について学ぶ。		
4	美肌のために		紫外線などの肌に影響を与える様々な要因を知り、美肌の維持に何が必要か理解する。		
5	総合演習				
到達目標	化粧品検定2級を通して、美容部員としての通常業務において必要な手技・用語の理解、知識の獲得。				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80％、小テスト20％）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	化粧品検定2級				

学科	職業実践専門課程 ビューティーアーティスト科	担当教員	村田		
科目名 (授業名)	美容理論（化粧品検定2級）				
開講年度	2026年度	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	演習	必修・選択の 別	必修	単位数 (時間数)	2 (5)
教育目標・ねらい	理論に基づいた正確な化粧品の知識習得を目指し2級検定を取得する。				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1	皮膚・肌について知る：皮膚の構造を知り、各々のはたらきを知る。		皮膚の構造を知り、各々のはたらきを理解する		
2	肌の手入れ：肌に起こりうるトラブルとその正しい手入れ方法を学ぶ。		肌に起こりうるトラブルとその正しい手入れ方法を理解する		
3	メイクアップの基本テクニック：一般的なメイクの手順と肌悩みに応じたメイクの手法について学ぶ。		一般的なメイクの手順と肌悩みに応じたメイクの手法について学ぶ。		
4	美肌のために：紫外線などの肌に影響を与える様々な要因を知り、美肌の維持に何が必要かを学ぶ。		紫外線などの肌に影響を与える様々な要因を知り、美肌の維持に何が必要か理解する。		
5	総合演習				
到達目標	化粧品検定2級を通して、美容部員としての通常業務において必要な手技・用語の理解、知識の獲得。				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80％、小テスト20％）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	化粧品検定2級				

学科	職業実践専門課程 ビューティーアーティスト科	担当教員	池田		
科目名 (授業名)	美容美術				
開講年度	2026年度	学 年	1	実施時期	通年
授業形態	演習	必修・選択の 別	必修	単位数 (時間数)	2 (30)
教育目標・ね らい	色彩の理論を理解し、それを応用したテーマ作品を根気よく創造し、色彩の美を体感できるようになる。期待に添えるヘアメイクの技術提供ができるようになるため、美術の教養と技術、デッサン力とデザイン力を身につける。				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1	1.授業のガイダンス 2.色彩の基礎Ⅰ-色の3.原色より色相環の作成		①PCCSの色番号やトーンなど色彩の基礎を解釈する。②3原色の絵の具を適量混ぜながら24色相を作り出し相応しい色を着色する。隣同士が同じような色にならず、均等配色を目指し、色の段階や色相の配置を体感できる。③水量を調節しムラなく、筆の穂先を揃え、はみ出さずに美しく着色できる。		
2	1.人物デッサンⅠ-顔の描写と韓流メイク 2.色彩の基礎Ⅱ-トーン表		1.①バランスよく、おでこ、鼻、唇、目などを描けるようになる。②並行眉、まつげの向き、涙袋の下のラインの強調など描写しながら習得する。 2.①明度、彩度、中間色など色彩の理解を深める。 ②一つの色相を選び、そのトーン表の作成をする。 例えば赤（色相）白,黒の絵の具の量を調節して混色し12トーンを作る。		
3	色彩の基礎Ⅲ-補色の混色、グラデーションづくり、各肌色に似合う髪色		①補色同士の混色をしグレーを作る。金髪色に紫や赤みの頬にグリーンのコントロールカラーの例より補色同士の混合による彩度の緩和を行う。②5色相に黒を混ぜて赤系から黄系の茶色をつくる。③ピンク系に似合うブルーベース、オークル系の肌に似合うイエローベースの色やパーソナルカラー、4シーズンの色彩を分類する。④色相またはトーンの変化を用いたグラデーションを作る。		
4	バラのデザイン画Ⅰ-下書きと配色計画、着色		①模写の方法を学ぶ。直線か,曲線か,線の凹凸の位置,ガイドの線のどこを通過しているかなど、模写の方法やコツを学ぶ。1マス1マス確認しながら輪郭線の模写をする。②第1～3回の色彩の基礎を生かし、色相を変化,またはトーンを変化させたグラデーション等、配色の計画を立てる。③モノトーンのバラの資料の1-5段階の明暗（白～黒）を、計画した明暗5色のカラーのグラデーションに置き換える。いちばん暗い部分を3段階くらいのグラデーションで塗る。		
5	バラのデザイン画Ⅱ-着色、面と明度、グラデーション		①一つの花びらの中に5,6色ほどのグラデーションの変化があることを理解し、写真のグラデーションの色の変化を手本に明暗の5-6段階で塗り分ける。①稜線を意識し、面が変わるところで明度が変わることを理解し立体感を出す。②直線や曲線などの細やかな描写、色彩の変化により、心情や個性を表現する。		

6	1.バラのデザイン画Ⅲ-背景と仕上げ 2.人物デッサンⅡ-前、横からの頭部の描写	1.配色カードを当て背景によりバラの見え方が変化することを理解し効果的な背景色を選ぶ。十人十色のバラのデザイン画を鑑賞しデザイン性の高い、完成度の高い美しい作品を考え、自らの完成度を客観的に評価し、改善すべき点を考える。2.バランスよく、おでこ、鼻、唇、目などを描けるようになる。 ②毛髪は曲線の傾きを追って描き、鉛筆の濃淡や練りゴムで光（白）を入れることで明暗、艶を出し立体感を出す。※美容の現場で美しい女性が短時間で描けるようになることを目指す。
7	1.人物デッサンⅢ 2.選択デザイン-次課題の解説Ⅰ	①顔の形、左右の目の大きさなどバランスよく描けるようになる。②色鉛筆を混ぜて影などを塗り分け立体感を出す。色鉛筆の濃淡で毛髪のカラーのグラデーションを作ることができる。2.選択デザイン-の解説を理解する。
8	選択デザイン-数などを用いたデザインの考案Ⅰ	シンメトリー、リピート、関数、黄金比の美を理解し、選んだテーマに沿って作品を考案する。①計画：二乗した数の合計が用紙にうまく入るよう縮小したり、作品が中央に配置されるなどレイアウトができる。②色彩計画：モノトーンと有彩色、360度色相、2色相のグラデーションなど配色計画を立てる。③マスキング、定規、コンパスなどの道具を用いて美しく作図、着色を1.2割まで進める。
9	選択デザイン-数などを用いたデザインの考案Ⅱ	作品のグラデーションの変化が適切か、ワンポイントに他色相の色を低面積に入れるか、など配色カードを用いて検討しながら作品の着色を6.7割まで進める。マスキングテープなどを用い、穂先を整え、美しく塗り進める。
10	選択デザイン-数などを用いたデザインの考案Ⅲ	丁寧に仕上げる。無から作品を作り出す喜びを味わう。シンメトリーはヘアやファッションショー等舞台の構成でもよく使われる。リピートでは同じ形を繰り返し使う効果を学習、関数を用いたデザインでは数倍または2乗した数の並びの美しさを学ぶ。その中でデザイン力が向上し他の学習面への興味も高まる。
到達目標	色彩の理論を用いた色彩計画や配置に基づき美しい作品を創造することができる。デッサン力とデザイン力(発想し仕上げる)を向上させる。業界で役立つ色彩検定の取得を目指す。美術の教養と技術を身につけ色彩の美を体感できるようになる。ヘアメイクの技術提供のため人物画を描くことができるようになる。	
評価方法	作品のデザイン性と完成度、仕上がり具合で各課題を採点します。「色彩の基礎、人物デッサン1、バラのデザイン画、人物デッサン2、選択デザイン」の各課題にかかる時間数や重要度により得点を按分し、副課題の加点、提出遅れや居眠り、制作遅れ等の減点を集計し、A～Eの成績点といたします。合格点はA～Dです。全課題を提出する必要があります。	
テキスト	プリント	

学科	職業実践専門課程 ビューティーアーティスト科	担当教員	唐沢・川添		
科目名 (授業名)	美容実習（メイク）				
開講年度	2026年度	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択の 別	必修	単位数 (時間数)	15 (30)
教育目標・ね らい	ユニオンテキストを基としてメイクの基礎を理解し、標準バランスのメイクができるようになる				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1	基礎：メイク道具の取り扱い方、テーブルセッティング方法		メイク道具の扱い・メイクセッティングができるようになる		
2	基礎ベース：スキンケア、フェイスマッサージ、クレンジングの手順 ※各メイクごとにクレンジング 展示、実習		ベースメイク(下地作り)の意味合いがわかり・施術ができるようになる		
3	基礎ベース：ベース、ファンデーション、コンシーラー、パウダー、ハイライト、シェーディング ※1 スポンジ、ブラシ、素手など使用する道具の違いを理解する ※2 固形、パウダー、リキッドなど質感の違いを伝える		ベースメイクの意味合いがわかり・用途に合った道具を使用して施術ができるようになる		
4	基礎アイ①：アイブロー、アイブローパウダー、眉の整え方（カット、トリミング、ツウィーズ）		アイブローのバランス・施術方法を理解する		
5	基礎アイ②：アイシャドー、アイライナーペンシル		アイブロー・アイシャドーのバランス・施術方法を理解する		
6	基礎アイ③：アイシャドー、アイライナーペンシル、リキッドアイライナー、ビューラー、マスカラ		アイシャドー、アイライナーペンシル、リキッドアイライナー、ビューラー、マスカラのバランス・施術方法を理解する		
7	基礎リップ：リップ、リップライナー		リップ、リップライナーのバランス・施術方法を理解する		
8	基礎チーク：チーク(ハイライト、シェーディング復習) ※ パウダー、リキッド、固形の各種で実習		チーク(ハイライト、シェーディング復習) ※ パウダー、リキッド、固形のバランス・施術方法を理解する		
9~10	フルメイク：スキンケアからのフルメイク①40分 ※ 各モデルごとにbefore・afterの写真を撮り、フェイスチャートにまとめる		自身のフェイスバランスを理解する フェイスバランスに合わせたメイクアップができるようになる		
11~12	フルメイク：スキンケアからのフルメイク②40分		自身のフェイスバランスを理解する フェイスバランスに合わせたメイクアップが規定の時間で出来るようになる		
13~14	フルメイク：《前期実技試験》 スキンケアからのフルメイク40分		フェイスバランスに合わせたメイクアップが規定の時間で出来るようになる		
15	総復習		前期試験にて改善点を把握して修正できる		

到達目標	メイクの基礎を理解し、標準バランスのメイクができるようになる。
評価方法	各期実技試験及び授業内チェック、メイクシートにより評価する。なお、所定授業時間数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない
テキスト	ユニオン公式テキスト、プリント
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う

学科	職業実践専門課程 ビューティーアーティスト科	担当教員	唐沢・川添		
科目名 (授業名)	美容実習（メイク）				
開講年度	2026年度	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択の別	必修	単位数 (時間数)	15 (30)
教育目標・ねらい	「美容理論2」（日本理容美容教育センター指定教科書）を基として色分析によるキュート、ボーイッシュ、クール、エレガントのイメージ別メイクの理解と習得				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1～2	パーソナルカラー：スプリングベース→キュートな印象 サマーベース→エレガントな印象		イメージ別メイクを理解施術出来るようになる		
3～4	パーソナルカラー：オータムベース→知的な印象 ウインターベース→シャープな印象		イメージ別メイクを理解施術出来るようになる		
5	パーソナルカラー：縦メイク（女性的）アイシャドウ、アイライン、リップライン		イメージ別メイクを理解施術出来るようになる		
6	パーソナルカラー：横メイク（男性的）アイシャドウ、アイライン、リップライン		イメージ別メイクを理解施術出来るようになる		
7～8	イメージ別（パーソナルカラー）メイク：ボーイッシュメイク→クールメイク		イメージ別メイクを理解施術出来るようになる		
9～10	イメージ別（パーソナルカラー）メイク：キュートメイク→エレガントメイク		イメージ別メイクを理解施術出来るようになる		
11～12	イメージ別（パーソナルカラー）メイク：《プレ試験》シーン、テーマに沿ったメイク 30分		シーンやテーマに沿ったメイクアップを相モデルに施すことが出来る		
13～14	イメージ別（パーソナルカラー）メイク：《後期実技試験》シーン、テーマに沿ったメイク 30分		シーンやテーマに沿ったメイクアップを時間内に相モデルに施すことが出来る		
15	イメージ別（パーソナルカラー）メイク：総復習		実技試験での改善点を修正することが出来る		
到達目標	シーンに合わせたメイクをカタチにできる技術力とプレゼン力を身に着ける				
評価方法	各期実技試験及び授業内チェック、メイクシートにより評価する。なお、所定授業時間数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない				
テキスト	プリント				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	職業実践専門課程 ビューティーアーティスト科	担当教員	唐沢・川添		
科目名 (授業名)	美容実習（ユニオン認証メイク）				
開講年度	2026年度	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択の 別	必修	単位数 (時間数)	15 (30)
教育目標・ねらい	ユニオンテキストを基として顔分析（スペースバランス）、キュート、フレッシュ、クール、エレガントのイメージ別メイクの理解と習得				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1～2	顔分析：顔分析、余白タイプ別メイク方法		顔分析ができ、顔余白に合わせたメイク方法を理解する		
3～4	顔分析：顔型のパターン、顔の縦・横のバランス、眉・目・唇のバランス、顔のタイプ		顔分析による顔方のパターンを学び各顔パーツの形の見え方を理解する		
5～6	顔分析：子供顔、大人顔、男性的、女性的 ※ before・afterで写真を撮り、フェイスチャートにまとめる		顔分析に合わせたメイクアップを行いフェイスチャートを作れる		
7	イメージ別 メイク：フレッシュ メイク (イメージに合わせた色・形・質感を学ぶ)		フレッシュ メイクを仕上げる事が出来る		
8	イメージ別 メイク：キュートメイク (イメージに合わせた色・形・質感を学ぶ)		キュートメイクを仕上げる事が出来る		
9	イメージ別 メイク：クール メイク (イメージに合わせた色・形・質感を学ぶ)		クール メイクを仕上げる事が出来る		
10	イメージ別 メイク：エレガント メイク (イメージに合わせた色・形・質感を学ぶ)		エレガント メイクを仕上げる事が出来る		
11	イメージ別 メイク：イメージ別メイクトレーニング 40分 ※フレッシュ⇄クールなどベースはそのままメイクチェンジなども実習		規定の時間でイメージの切り替えメイクができる		
12	イメージ別 メイク：イメージ別メイクトレーニング 40分 ※ キュート⇄エレガントなどベースはそのままメイクチェンジなども実習		規定の時間でイメージの切り替えメイクができる		
13～14	イメージ別 メイク：《ユニオン認定試験》シーン、テーマに沿ったメイク 40分		規定の時間でシーン・テーマに沿ったメイクができる		
15	イメージ別 メイク：総復習		試験での改善点を修正することが出来る		
到達目標	顔分析（スペースバランス）、キュート、フレッシュ、クール、エレガントのイメージ別メイクの理解と習得				
評価方法	各期実技試験及び授業内チェック、メイクシートにより評価する。なお、所定授業時間数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない				
テキスト	ユニオン公式テキスト、プリント				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	職業実践専門課程 ビューティーアーティスト科	担当教員	安東		
科目名 (授業名)	美容実習（メイクセラピー 2 級）				
開講年度	2026年度	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択の 別	必修	単位数 (時間数)	15 (36)
教育目標・ね らい	メイクセラピー検定 2 級対策を通し、心理学を用いた印象を変えるメイク技術、外見の美しさと内面の関係性、対人コミュニケーションに役立つ心理について学びます。 美容部員などの接客業だけでなく、将来のさまざまな場面で役立つスキルを身に付けることができます。				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1	メイクセラピー検定とは 印象分析（顔のパーツバランス）		メイクセラピーの手法を理解する。 顔立ちによる印象の違いを心理学に基づいて理解する。		
2	印象分析（コミュニケーション） 色彩とメイク		コミュニケーションにおける印象の違いを理解する。 色彩が人に与える心理的効果を理解する。		
3	化粧心理学① メイク実習（求心・遠心）		元の顔立ちから印象を変えるメイク方法について理解する。		
4	化粧心理学② メイク実習（穏やかな印象を与えるメイク）		化粧と心理の関係を理解する。 オーダー例に基づいたメイク方法を理解する。		
5	メイクセラピー的心理学 メイク実習（元気な印象を与えるメイク）		メイクセラピーに関連する心理学について理解する。 オーダー例に基づいたメイク方法を理解する。		
6	カウンセリング概論 メイク実習（知的な印象を与えるメイク）		カウンセリングの流れや注意すべき点を理解する。 オーダー例に沿ったメイク方法を理解する。		
7	論述問題対策 メイク実習（華やかな印象を与えるメイク）		オーダー例に沿ったメイク方法を理解する。 記述問題の解答方法について学ぶ。		
8	論述問題対策 メイク実技模擬テスト		模擬テストにより不得手な個所を理解し、合格レベルまで改善するよう復習する。		
9	筆記＆実技総復習		合格レベルに達する知識と技術を身につける。 検定当日のモデルの顔立ちや肌色に合わせてオーダー通りにメイクができるようになる。		
1 0	メイクセラピー検定 2 級検定試験				
到達目標	祝式メイクセラピーの手法が理解できる。 相手のオーダーに基づき「印象を変える」メイクができるようになる。				
評価方法	模擬試験結果・課題レポート、小テスト、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	メイクセラピー検定 2 級対策公式テキスト				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は10年以上の美容部員の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	職業実践専門課程　ビューティーアーティスト科	担当教員	唐沢		
科目名 (授業名)	美容実習(セット試験課題)				
開講年度	2026年度	学　年	1	実施時期	通年
授業形態	実習	必修・選択の 別	必修	単位数 (時間数)	15 (80)
教育目標・ね らい	ヘアセットを学びながら、ヘアメイクアップアーティストに必要な心構えや技術修得を目指す				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1， 2	ウィッグ配布、道具の並べ方、頭部・道具の名称 ウェット、7スライス、コーミング		道具のおき方、頭部の名称、道具の名称、使用目的 を理解する　　コームの持ち方、コームの回転、 ウェットの仕方、スライスの取り方、コーミングの 仕方が理解できる		
3， 4	カールアイロン　ホットカーラー		・カールアイロンを使用し、フォワード・リバース カールが出来るようになる ・オンベース、オフベースを理解しホットカーラー を巻けるようになる		
5， 6	ピンニング　黒ゴム		・ピンの使用目的、使用方法を理解し、ピンニング出 来るようになる ・黒ゴムの使用目的、使用方法を理解する		
7， 8	一束　すき毛		・黒ゴムを使用し毛束を1つに束ねることが出来る ようになる ・すき毛の使用目的、使用方法を理解する		
9， 1 0	すき毛一束　ボトムのデザイン		・すき毛を使用し一束を作れるようになる ・色々な方法でボトムをデザインすることが出来る		
1 0， 1 1	逆毛　前髪		・逆毛の目的を理解し、逆毛を立てられるように なる ・下ろし流し立ち上げの前髪をつくれるようになる		
1 2， 1 3	試験課題		試験課題を理解する		
1 4～2 0	試験課題　仕込み		・試験課題を理解する　フロント、サイド、トップの 理解を深める ・仕込みの方法を学習し、試験課題の理解を深める		
2 1～2 6	試験課題		・試験課題を理解を深める　すき毛の形と大きさを 理解する ・審査ポイントを理解し、課題の理解を深める		
2 7～3 0	試験課題		・各パーツの作り方を復習し、課題の理解を深める ・各パーツ(フロント、サイド、トップ)の作り方を 復習し、試験課題の理解を深める		
3 1～3 3	試験課題		・試験課題を30分で作れるようになる ・セットの基本技術(ブラシワーク、ピンニング、黒ゴ ム)を習得し、面構成のスタイルを作成することが出 来るようになる		
3 4、3 5	試験課題		試験課題を理解する		
3 6， 3 7	試験課題		試験課題を30分で作れるようになる		
3 8～4 0	実技試験		【到達目標】セットの基本技術(ブラシワーク、ピニ ング、黒ゴム)を修得し、面構成スタイルを作成する ことが出来るようになる		

到達目標	セットの基本技術(ブラシワーク、ピニング、黒ゴム)を習得し、面構成スタイルを作成することが出来るようになる
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時間数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない
テキスト	配布資料
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う

学科	職業実践専門課程 ビューティアーティスト科	担当教員	唐沢		
科目名 (授業名)	美容実習(デザインヘア)				
開講年度	2026年度	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択の 別	必修	単位数 (時間数)	15 (20)
教育目標・ねらい	ヘアセットにおけるポイントごとの技術力を高め、セットスタイルにおける総合力を高め現場での即戦力化を目指す。				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1～2	カール		フォワードカール、リバースカールなど色々なカールを作れるようになる		
3	ストレートアイロン		ストレートアイロンの正しい使い方を理解して、ストレートヘアとウェーブヘアを作ることが出来るようになる		
4～5	ブロー		デンマンブラシとロールブラシを使用し、ウィッグをブローすることが出来るようになる		
6	編む		三つ編み、編み込みが出来るようになる		
7	ハーフアップ		アイロンワークの復習をしながらハーフアップの作品を作成することができる		
8	編み込み		アイロンワークの復習をしながら編み込み作品を作成することができる		
9	お団子スタイル		アイロンワークの復習をしながらお団子スタイルを作成することが出来る		
10	ヘアアレンジ		ホットカーラーを復習し、アレンジ作品を作成することができる		
到達目標	ヘアメイク現場に必要なセット技術を身に付け、卒業後即戦力として活躍できるようになる				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業指数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない				
テキスト	配布資料				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	職業実践専門課程　ビューティーアーティスト科	担当教員	唐沢		
科目名 (授業名)	美容実習(セット相モデル実習)				
開講年度	2026年度	学　年	1	実施時期	通年
授業形態	実習	必修・選択の 別	必修	単位数 (時間数)	15 (12)
教育目標・ねらい	ウィッグではなく人に技術を施すことで、憧れだった職業を現実的に体感し接客や技術力向上を目指す				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1	カウンセリング：カウンセリングシートをもとに要望を把握し、要望に応じたテクニックを学ぶ		お客様の要望を引き出し方と要望に応えるヘアセット技術を知識として理解して説明ができる		
2～4	相モデル実習		お客様の要望を引き出し方と要望に応えるヘアセット技術、それにこたえられる技術提供を実践を通して提供する事が出来る		
5～6	相モデル実習・仕上がりチェック		実技チェックを行いお客様の要望を引き出し方と要望に応えるヘアセット技術、それにこたえられる技術提供を実践を通して提供する事が出来ることを確認する		
到達目標	モデルの要望を引き出し、カウンセリングシートにまとめ、対象者に伝えられる技術提供ができる				
評価方法	(100点満点)で評価する。なお、所定授業指数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない				
テキスト	配布資料				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	職業実践専門課程 ビューティーアーティスト科	担当教員	唐沢・山田		
科目名 (授業名)	美容実習（ネイル3級）				
開講年度	2026年度	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	演習	必修・選択の 別	必修	単位数 (時間数)	15 (32)
教育目標・ねらい	ネイルケア・ネイルアートに関する基礎的な技術及び知識を習得することができる				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1	・ 道具のセッティング、使用方法/ネイル技能検定3級試験概要説明 ・ ファイリングカットスタイル/ファイリング		ネイル道具のセッティングができるようになり、ネイル技能検定3級試験の内容を理解する ファイリングカットスタイルの種類と定義を理解し、「ラウンド」の定義を説明・実践することができるようになる		
2	・ 爪の構造と働き		爪の各部名称を理解し、施術をする際にどの部分が説明することができる		
3	・ ネイルケア、ニッパー		プッシャーをプッシュバック・プッシュアップ、ニッパーハンドリングができるようになる		
4	・ カラーリング/ネイルアート		赤ポリッシュをムラなくきれいに塗ることができるようになる。花のアートの描く手順を理解し、水分量を調節しながら花のアートを描くことができるようになる。		
5	・ 3級内容流れの確認		ネイル技能検定3級受験と同じスケジュールで技術工程を覚える		
6	・ タイムトライアル		ネイル技能検定3級受験と同じスケジュールで技術工程を行うことができる		
7	・ タイムトライアル、苦手練習		ネイル技能検定3級受験と同じスケジュールで技術工程を行うことが出来、合格レベルの仕上がりが作れるようになる		
8	・ ネイル実技試験(3級)		3級内容を理解し正しい手順、技法で施術することができる		
到達目標	ネイルケア、ネイルアートに関する基本的な技術及び知識を習得することができる				
評価方法	各期試験、小テスト、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	JNAテクニカルシステムベーシック テキスト				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	職業実践専門課程 ビューティーアーティスト科	担当教員	境		
科目名 (授業名)	美容実習（ネイル3級）				
開講年度	2026年度	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択の 別	必修	単位数 (時間数)	15 (24)
教育目標・ねらい	ネイルの基礎知識・基礎技術を習得し、安全且つ衛生面に配慮し技術工程を行うことができる				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1	・ 道具のセッティング、使用方法/ネイル技能検定3級試験概要説明 ・ ファイリングカットスタイル/ファイリング		ネイル道具のセッティング、ネイル技能検定3級試験の内容を理解し、ファイリングカットスタイルの種類と定義を理解する		
2	ネイルケア、ニッパーの使い方		プッシャーをプッシュバック・プッシュアップ、ニッパーハンドリングができるようになる		
3	カラーリング/ネイルアート		赤ポリッシュをムラなくきれいに塗ることができるようになる。花のアートの描く手順を理解し、水分量を調節しながら花のアートを描くことができるようになる。		
4	3級内容流れの確認		ネイル技能検定3級受験と同じスケジュールで技術工程を覚える		
5	タイムトライアル、苦手練習		ネイル技能検定3級受験と同じスケジュールで技術工程を行うことが出来、合格レベルの仕上がりが作れるようになる		
6	ネイル実技試験(3級)		3級内容を理解し正しい手順、技法で施術することができている		
到達目標	正しく、安全にネイル道具を使用することができるようになる 赤ポリッシュを美しく塗ること、花のネイルアートを描くことができるようになる				
評価方法	提出課題（作品）・課題レポート、小テスト、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	JNAテクニカルテキスト				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員はネイルサロン経営者として、また日本ネイリスト協会本部認定講師としての経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	職業実践専門課程 ビューティーアーティスト科	担当教員	境		
科目名 (授業名)	美容実習（ネイル2級）				
開講年度	2026年度	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択の 別	必修	単位数 (時間数)	15 (24)
教育目標・ねらい	ネイルの基礎知識・基礎技術を習得し、安全且つ衛生面に配慮し技術工程を行うことが出来る				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1	・ 道具のセッティング、使用方法/ネイル技能検定 2 級試験概要説明 ・ 2 級レベルケア・カラーリング		ネイル技能検定 2 級試験の内容を理解する。 2 級レベルの技術を習得する		
2	チップ＆ラップ説明、練習		2 級必須項目のチップ＆ラップを理解し習得する		
3	2 級流れ確認		ネイル技能検定 2 級受験と同じスケジュールの技術工程を覚える		
4	2 級内容タイムトライアル		ネイル技能検定 2 級受験と同じスケジュールで技術工程を行い時間内に仕上げる		
5	タイムトライアル、苦手練習		ネイル技能検定 2 級受験と同じスケジュールで技術工程を行うことが出来、合格レベルの仕上がりが作れるようになる		
6	ネイル実技試験(2 級)		2 級内容を理解し正しい手順、技法で施術することができる		
到達目標	正しく、安全にネイル道具を使用することができるようになる 指定カラーをきれいに塗布、チップ＆ラップができるようになる				
評価方法	提出課題（作品）・課題レポート、小テスト、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	JNAテクニカルテキスト				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員はネイルサロン経営者として、また日本ネイリスト協会本部認定講師としての経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	職業実践専門課程 ビューティーアーティスト科	担当教員	唐沢		
科目名 (授業名)	美容実習（ネイル2級）				
開講年度	2026年度	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択の 別	必修	単位数 (時間数)	15 (36)
教育目標・ねらい	サロンワークで通用するネイルケア・リペア・チップ&ラップ、ネイルアートに関する技術及び知識を習得することができる				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1	・ 道具のセッティング、使用方法/ネイル技能検定2級試験概要説明 ・ リペア&イクステンションの用具・用材と使用目的		ネイル道具のセッティングができるようになり、ネイル技能検定2級試験の内容を理解するリペア&イクステンションの用具・用材と使用目的を理解し、正しく安全に使用することができる		
2	・ ネイルケア		ラウンドの仕上がり、クリーンナップの仕上がりなどサロンワークで通用するネイルケアに仕上げることができる。		
3	・ カラーリング/ネイルアート		指定カラーをムラなくきれいに塗ることができるようになる。ネイルアートは、テーマに相応しいデザインを筆のみで描き精密に描くことができる。		
4	・ イクステンション（チップ&ラップ）		イクステンション（チップ&ラップ）の手順を理解し、モデルの爪に合せたネイルチップ・ラップ素材の選び、装着をすることができる		
5	・ 前半課題（ネイルケア）のチェック		2級合格レベルのネイルケアに仕上げるができる		
6	・ 2級内容流れの確認		ネイル技能検定2級受験と同じスケジュールで技術工程を覚える		
7	・ タイムトライアル		ネイル技能検定2級受験と同じスケジュールで技術工程を行うことができる		
8	・ タイムトライアル、苦手練習		ネイル技能検定2級受験と同じスケジュールで技術工程を行うことが出来、合格レベルの仕上がりが作れるようになる		
9	・ ネイル実技試験(2級)		2級内容を理解し正しい手順、技法で施術することができる		
到達目標	ネイルケア、ネイルアートに関する基本的な技術及び知識を習得することができる				
評価方法	各期試験、小テスト、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	JNAテクニカルシステムベーシック テキスト				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	職業実践専門課程 ビューティーアーティスト科	担当教員	唐沢		
科目名 (授業名)	美容実習（ネイル中級）				
開講年度	2026年度	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択の 別	必修	単位数 (時間数)	15 (24)
教育目標・ね らい	ジェルネイルを施術するため必要な基礎的知識と技術の習得				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1～4	ジェル検定初級試験課題について		課題内容を知り、使用する道具の名称、用途を理解する。		
5～8	ネイルケアについて		手指消毒、ファイリング、キューティクルクリーンまで仕上げるができる。		
9～12	ポリッシュカラーリングについて		ベースコート、カラーポリッシュ（2度塗り）、トップコートまで仕上げるができる。		
13～16	ジェルカラーリングについて		サンディング、ベースジェル、カラージェル（2度塗り）、トップジェルまで仕上げるができる。		
17～20	ジェルアートについて		ジェルカラーリングの赤色に映えるジェルアート（ピーコック）を施すことができる。		
21～24	実技試験 第2 課題について		60分以内にポリッシュカラーリング、ジェルカラーリング、ジェルアートを仕上げるができる。		
到達目標	60分以内にポリッシュカラーリング、ジェルカラーリング、ジェルアートを仕上げるができる。				
評価方法	各期試験、小テスト、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	JNAジェルネイルテキスト				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	職業実践専門課程 ビューティーアーティスト科	担当教員	境		
科目名 (授業名)	美容実習（ネイルジェルネイル初級）				
開講年度	2026年度	学 年	1年	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択の 別	必修	単位数 (時間数)	15 (12)
教育目標・ね らい	ネイルの基礎知識・基礎技術を習得し、安全且つ衛生面に配慮し技術工程を行うことが出来る				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1	道具のセッティング、使用方法/初級工程確認		ネイル道具のセッティングができるようになり、ジェルネイルの特性を理解する		
2	赤ポリッシュと赤ジェル塗布練習		ジェルネイルの特性を理解し、ジェル検定初級の技術を習得する		
3	ピーコックアート		ジェルネイルの特性を理解し、初級アートを習得する		
4	初級流れ確認、通し練習		ジェルネイル技能検定初級と同じスケジュールの技術工程を覚える		
5	ネイル実技試験(初級)		初級内容を理解し正しい手順、技法で施術することができる		
到達目標	正しく、安全にネイル道具を使用することができるようになる ネイルケア、ジェルネイルの特性を理解し初級合格レベルの施術ができるようになる				
評価方法	提出課題（作品）・課題レポート、小テスト、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	JNAジェルネイルテキスト				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員はネイルサロン経営者として、また日本ネイリスト協会本部認定講師としての経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	職業実践専門課程 ビューティーアーティスト科	担当教員	唐沢		
科目名 (授業名)	美容実習（ネイル中級）				
開講年度	2026年度	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択の 別	必修	単位数 (時間数)	15 (4)
教育目標・ねらい	ジェル検定中級試験課題を理解し、試験で使用する道具を消毒及び衛生的に配置することが出来る				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1～2	ジェル検定中級試験課題について		課題内容を知り、使用する道具の名称、用途を理解する。		
3～4	ジェル検定中級試験課題について		使用する器具・用具類の消毒方法を理解し、消毒することができる。衛生的に配置することができる。		
到達目標	消毒することの意味や使用する消毒剤の種類等正しい知識を習得することができる。				
評価方法	各期試験、小テスト、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	JNAジェルネイルテキスト				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	職業実践専門課程 ビューティーアーティスト科	担当教員	境		
科目名 (授業名)	美容実習（ネイルジェルネイル中級）				
開講年度	2026年度	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択の 別	必修	単位数 (時間数)	15 (12)
教育目標・ね らい	ネイルの基礎知識・基礎技術を習得し、安全且つ衛生面に配慮し技術工程を行うことができる				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1	道具のセッティング、使用方法/中級説明		ジェルネイルの特性を理解し中級レベルの技術を習得する		
2	ピンクグラデーション説明、練習		ジェルネイルの特性を理解し、グラデーションができるようになる		
3	フレンチネイル説明、練習		ジェルネイルの特性を理解し、フレンチネイルができるようになる		
4	ジェルカラーリング(フレンチ、ピンクグラデーション)		ジェルネイルの特性を理解し、塗布が出来る		
到達目標	正しく、安全にネイル道具を使用することができるようになる JNAジェルネイル検定中級合格レベルの技術を習得しサロンワークで活かせるようになる				
評価方法	提出課題（作品）・課題レポート、小テスト、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	JNAジェルネイルテキスト				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員はネイルサロン経営者として、また日本ネイリスト協会本部認定講師としての経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	職業実践専門課程 ビューティーアーティスト科	担当教員	渡辺・唐沢		
科目名 (授業名)	美容実習（着付け）				
開講年度	2026年度	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	演習	必修・選択の 別	必修	単位数 (時間数)	15 (12)
教育目標・ね らい	浴衣の補正、自装、他装の着付けができるようになる				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1～4	浴衣の着付けについて		道具の名称、浴衣のたたみ方、補正の仕方を理解する		
5～8	浴衣の着方（自装）		タオルで補正し、浴衣を着ることができる。文庫結びができるようになる		
9～12	浴衣の着付け（他装）		タオルで補正し、浴衣を着付け、文庫結びをすることができる		
到達目標	浴衣の補正、自分で着ることができる、他人に着付けることができる				
評価方法	実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	日本髪・着付け理論プリント				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	職業実践専門課程 ビューティーアーティスト科	担当教員	渡辺・唐沢		
科目名 (授業名)	美容実習（着付け）				
開講年度	2026年度	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択の 別	必修	単位数 (時間数)	15 (32)
教育目標・ね らい	浴衣の補正、自装、他装の着付けができるようになる				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1～10	浴衣の着付けについて		道具の名称、浴衣のたたみ方、補正の仕方を理解する		
11～21	浴衣の着方（自装）		タオルで補正し、浴衣を着ることができる。文庫結びができるようになる		
22～32	浴衣の着付け（他装）		タオルで補正し、浴衣を着付け、文庫結びをすることができる		
到達目標	浴衣の補正、自分で着ることができる、他人に着付けることができる				
評価方法	実技試験およびチェック試験、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	日本髪・着付け理論プリント				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	職業実践専門課程 ビューティーアーティスト科	担当教員	田中		
科目名 (授業名)	国家試験必須科目（関係法規・制度）				
開講年度	2026年度	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択の 別	必修	単位数 (時間数)	3 (10)
教育目標・ね らい	人体の構造及び機能の基礎知識を学び、美容の実践に活かせるようにする				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1	法の形式と美容師法について		(1) 社会生活における法の役割を理解している (2) 美容師法の目的と用語を理解している (3) 美容師の義務への理解を通し、衛生の重要性を理解している		
2	美容師免許制度と衛生行政について		(1) 美容師免許制度の概要を知り、3年後の国家試験の流れを理解する (2) 衛生行政の核となる保健所の美容業に対する関わりを学び、第4回授業の基礎となる諸知識を理解している		
3	美容所の開設・運営について		(1) 美容所の開設の具体的方法を知る (2)美容所開設者の衛生措置と美容師の義務を対比して理解している		
4	容師・美容所に対する行政処分		(1) 美容所への立ち入り検査の概要と、その違反者に対する行政処分の種類を理解している (2) 保健所の行政処分に対する異議申し立ての過程を理解している		
5	総復習				
到達目標	美容師法等について理解することができる。				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80％、小テスト20％）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	関係法規・制度(日本理容美容教育センター) 美容師法関係法令集				

学科	職業実践専門課程 ビューティーアーティスト科	担当教員	木村		
科目名 (授業名)	国家試験必須科目（保健）				
開講年度	2026年度	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択の 別	必修	単位数 (時間数)	3 (8)
教育目標・ね らい	人体の構造及び機能の基礎知識を学び、美容の実践に活かせるようにする				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1	頭・顔・頸部の体表解剖学、骨格系について学ぶ		広範な基礎知識を確認する		
2	筋系・神経系について学ぶ		広範な基礎知識を確認する		
3	感覚器系、血液と免疫系、循環器系について学ぶ		広範な基礎知識を確認する		
4	呼吸器系、消化器系について学ぶ		広範な基礎知識を確認する		
到達目標	美容師にとって人体に関する最低限の知識を身につける				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80％、小テスト20％）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	人体の構造と機能（日本理容美容教育センター刊）				

学科	職業実践専門課程 ビューティーアーティスト科	担当教員	村田		
科目名 (授業名)	国家試験必修科目（香粧品化学）				
開講年度	2026年度	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択の 別	必修	単位数 (時間数)	3 (8)
教育目標・ね らい	美容部員として必要な香粧品に用いられる薬剤の成分や効能を学ぶことで企業人としての見識や教養を深める。				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1	導入、香粧品の定義：【基礎化学】物質の構成		香粧品を取り扱うことにあたって必要な法律や注意点を学ぶ。		
2	香粧品の取り扱い：【基礎化学】物質の量、溶解、コロイド		保存や用法、適正な使用方法を学ぶ。		
3	水性原料、油性原料		香粧品の主原料となる成分の種類や特徴を学ぶ。		
4	界面活性剤、色材・香料		4 種類の界面活性剤の特徴、使用用途を学ぶ。 香粧品のアクセントとなる香料の原材料、色材の特徴や長所と短所を学ぶ。		
到達目標	美容部員としての通常業務における使用薬剤・効能などの知識の獲得				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80％、小テスト20％）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	香粧品				

学科	職業実践専門課程 ビューティーアーティスト科	担当教員	今野		
科目名 (授業名)	国家試験必修科目（文化論）				
開講年度	2026年度	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択の 別	必修	単位数 (時間数)	3 (8)
教育目標・ねらい	文化論には幅広いお客様との相互理解を得るためのヒントや、創造の幅を広げるエッセンスが多く存在していることから、基本を知り、経験の中で理解を含めさせられるようにしていく。				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1	教科書オリエンテーション、文化論で何を学ぶか 理容業・美容業の発生、ファッション文化史日本編		文化論の美容業界における必要性を理解する。日本の美容の成り立ち、変遷を理解する		
2～3	中世の時代から江戸時代までの髪型と服装 明治・大正・昭和前期までの髪型と服装について		日本の美容文化の変遷：日本髪までの成り立ちと近代化(西洋化)への美容文化の流れを理解する		
4～5	1945年から1950年代のファッション文化について1960年代以降のファッション文化について		日本の美容文化の変遷：近代～現代までの日本美容文化の成り立ちと世界との関連を理解する		
6	礼装の種類/和装の礼装・洋装の礼装について		礼装におけるTPOを理解して多面的に活用できる		
7	ファッション文化史西洋編/古代エジプト～16世紀まで 17世紀～19世紀までのファッション文化について		世界の美容文化の変遷：近代までの成り立ちと歴史との関連を理解する		
8	1910年代以降のファッション文化について		世界の美容文化の変遷：近代～現代までの成り立ちと歴史との関連を理解する		
9	授業資料と国家試験果子問題集をもとに試験対策授業		学習を通して、日本・世界の美容文化・礼装の知識を総合的に理解する。（模擬試験で80点以上を取ることが出来る）		
到達目標	美容業界にて必要とされる歴史の基本知識を身につけるとともに国家試験への理解を深める				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80％、小テスト20％）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	理容文化論（日本理容美容教育センター指定教科書）				

学科	職業実践専門課程 ビューティーアーティスト科	担当教員	藤野		
科目名 (授業名)	国家試験必修科目（運営管理）				
開講年度	2026年度	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択の 別	必修	単位数 (時間数)	3 (8)
教育目標・ね らい	経営者が果たす役割や人を雇うことの責任を知り、社会人として求められることを学ぶ。				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1	"理美容業の経営環境 少子高齢化と理美容業 ・ 総人口の推移 ・ 若年・生産・老年3区分による将来人口推計 ・ 人口の減少と構造変化が理美容業に及ぼす影響と対応策 理美容業の動向 理美容業の動向 ・ 理美容所及び従業者の動向と課題"		授業で学んだ内容を理解する 小テスト5問（1問1点） 3問以上合格 日本理容美容教育センター指定教科書より出題		
2	"資金管理 経理 ・ 収支と損益 ・ 貸借対照表とその意義 ・ 損益計算書とその意義 税金 ・ 個人経営・法人経営別税金の種類と納付時期 ・ 税に関する罰則 ・ 青色申告制度 "		授業で学んだ内容を理解する 小テスト5問（1問1点） 3問以上合格 日本理容美容教育センター指定教科書より出題		
3	"年金保険 / 公的年金 ・ 国民年金 ・ 厚生年金保険 医療・介護保険 医療保険 ・ 国民皆保険制度 ・ 制度別保険者と被保険者・ 医療費一部負担金の割合 介護保険 ・ 介護保険法の目的・ 被保険者と財源負担 ・ 給付制度の概要"		授業で学んだ内容を理解する 小テスト5問（1問1点） 3問以上合格 日本理容美容教育センター指定教科書より出題		
4	"労働関係法規 労働基準法 ・ 労働条件の原則 ・ 労働時間、休憩、休日、年次有給休暇 等 労働安全衛生法 ・ 労働安全衛生法の目的 ・ 健康診断 雇用保険法 ・ 雇用保険法の目的 ・ 給付制度の概要 労働者災害補償保険法・ 労働者災害補償保険法の目的 ・ 給付制度の概要"		授業で学んだ内容を理解する 小テスト5問（1問1点） 3問以上合格 日本理容美容教育センター指定教科書より出題		
到達目標	経営とは何を目的に、どのようなことを行っていくか経営の基礎を理解させる。				
評価方法	学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	「運営管理」（日本理容美容教育センター指定教科書）				

学科	職業実践専門課程 ビューティーアーティスト科	担当教員	星野		
科目名 (授業名)	国家試験必須科目（美容技術理論）				
開講年度	2026年度	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択の 別	必修	単位数 (時間数)	3 (3)
教育目標・ね らい	基礎となる理論を学び、理論に基づいた正確な技術の習得を目指す				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1	美容技術理論を学ぶにたって 1 美容理論と美容技術 2 美容技術における作業姿勢 3 美容技術に必要な人体各部の名称		美容技術理論の基礎を理解する 小テストにて6割以上の得点を取る		
2	美容用具 1 美容技術における用具 2 コーム 3 ブラシ 4 シザーズ 5 レザー 6 ピン類、ヘアクリップ		美容用具の種類・使用方法・手入れ法を理解 する。小テストにて6割以上の得点を取る		
3	美容用具 7 ロット 8 ローラー 9 ヘアアイロン 10ヘ アドライヤー11 ヘアスチーマー 12 遠赤外線機 美容用具について試験		美容用具の種類・使用方法・手入れ法を理解 する。小テストにて6割以上の得点を取る		
到達目標	美容技術について基礎知識が理解できている				
評価方法	期末実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験する ことができない				
テキスト	「美容技術理論1」（日本理容美容教育センター指定教科書）				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦 力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	職業実践専門課程 ビューティーアーティスト科	担当教員	星野・唐沢		
科目名 (授業名)	国家試験課題実習(ワインディング)				
開講年度	2026年度	学 年	1	実施時期	通年
授業形態	実習	必修・選択の 別	必修	単位数 (時間数)	2 (40)
教育目標・ね らい	美容技術理論の基礎とともに、技術内容とあわせて理解し、資格試験課題第二課題ワインディング を合格レベルまでの技術を修得する				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1	ワインディング理論、ウィッグ・コーム等を使用しな +B7:H15がら確認		基礎となる理論を理解し、作業の想像ができる。		
2	コームワーク、ブロッキング		コームを用いて任意に毛髪の分けとりができる。		
3～5	ブロッキングタイム入れ、上巻き、下巻き展示、練習		基礎となる上・下巻きを適切に行うことができる。		
5～6	国家試験課題ワインディング理論と構成の確認 10ブロッキング、第2ブロック展示・練習		・国家試験課題ワインディング技術を理論的に説明 できる。 ・左右対称にロッド幅でブロッキングがとれる、ス		
7～9	第3、4ブロック展示練習 センター(第2～4ブロック)練習、タイム入れ		・オフベースに巻き収める際の留意点理解し、巻き 収めることができる。 ・オンベースとオフベースを適切に巻き分けること		
10～12	フロント(第1ブロック)展示・練習 右バックサイド、ネープ、サイド展示・練習		・フェイスラインに対してラウンドして巻き収める ことができる。 ・任意のスライスに対して直角に巻き収めることが		
13～15	コームワーク、ブロッキング		コームを用いて任意に毛髪の分けとりができる。		
16～19	全頭タイム入れ(35～25分)		定められた時間内に留意点すべてを押さえて巻き収 めることができる。		
20	国家試験第二課題ワインディング 全頭タイム入れ(25 分)		試験時間内に留意点すべてを押さえて巻き収めるこ とができる。		
到達目標	ワインディングの理論と共に基礎技術を身に付け、資格試験課題第二課題の構成を理解し形状を作 ることができる				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験する ことができない				
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」(日本理容美容教育センター指定教科書)				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦 力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	職業実践専門課程 ビューティーアーティスト科	担当教員	星野・唐沢		
科目名 (授業名)	国家試験必須科目(カット)				
開講年度	2026年度	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択の 別	必修	単位数 (時間数)	2 (20)
教育目標・ね らい	文化論には幅広いお客様との相互理解を得るためのヒントや、創造の幅を広げるエッセンスが多く存在していることから、基本を知り、経験の中で理解を含めさせられるようにしていく。				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1～3	カット技法、シザーズの構造、使用後の手入れを説明、開閉練習、国家試験課題カッティングの説明、ブロッキング、インサイドカット、手入れ方法の説明		技法毎の特徴を理解する。シザーズカットの仕組みが説明できる。 シザーズの持ち方と開閉を習得し、毛髪を適切に扱うことができる。 国家試験課題カッティングの構成、技法を説明出来る		
3	開閉テスト、ブロッキングテスト、国家試験課題カッティングの切り方(ヘムライン)パネルの角度とシルエットの説明		習得した技術を使用して実際に毛髪をカットすることができる。 ステムとスタイルの関係を説明できる。		
4	アウトサイドカットの練習・オンベース引き出し練習、国家試験課題カッティングの切り方(アンダーセクション、ミドルセクション、オーバーセクション)パネルの角度とシルエットの説明		頭皮に対して直角に毛髪を引き出すことができる。 国家試験課題カッティングでアンダーセクション、ミドルセクション、オーバーセクションをカットすることができる		
5	アウトサイドカットの練習・オンベース引き出し練習、国家試験課題カッティングの切り方(フロント、サイド)パネルの角度とシルエットの説明		頭皮に対して直角に毛髪を引き出すことができる。 国家試験課題カッティングの全体の引き出し方を説明できる 国家試験課題カッティングでフロント、サイドをカットすることができる		
6～9	国家試験課題カッティングを(50分)で練習をする		理論と技術行程を理解して、規定に則った作品を30分で作ることができる		
10	国家試験課題カッティング 技術時間50分 実技チェック		理論と技術行程を理解して、50分で国家試験合格レベルで作ることができる		
到達目標	カット理論の基礎と国家試験第一課題・カッティング試験の基礎的技術を理解し、作業時間50分で合格レベルまでの技術を修得する。				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」(日本理容美容教育センター指定教科書)				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	職業実践専門課程 ビューティアーティスト科	担当教員	唐沢・山田・川添		
科目名 (授業名)	ビジネスマインド				
開講年度	2026年度	学 年	1	実施時期	通年
授業形態	演習	必修・選択の 別	必修	単位数 (時間数)	3 (45)
教育目標・ね らい	社会的コミュニケーションの基礎となる目配り・気配り・心配りの意義を深く理解する。 また相手の立場に立って行動出来るよう自己理解を深める。各種技法の意味を理解し自己改善を図 ることで主体的に実践出来るようになる。				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1	LESSON1 ビジネスパーソンとは 「1-1学生と社会人との違い」		職業人としての自覚を芽生えさせる。		
2	自己分析		自分の強みや特徴を把握し、自分を客観的に見ることができる		
3	LESSON1ビジネスパーソンとは①「1-3 NG行動、1-5話の聞き方、1-6 笑顔」		良質な人間関係を築くために基本マナーを知る。		
4	LESSON1ビジネスパーソンとは② 「1-3 NG行動、1-5話の聞き方、1-6 笑顔」		良質な人間関係を築くための基本マナーを知る。加えて、「話し手」と「聞き手」のマナーを知る。		
5	LESSON2 身だしなみ+立ち居振る舞い「2-1 身だしなみ、2-2 立ち居振る舞い」		『品性』のある身のこなしを学び、実践する。		
6	LESSON6 ビジネスパーソンとしてのマナー 「6-1 時間のマナー、6-2 仕事上手のコミュニケーション、6-3 PDCA」		職場での円滑な関係性を築くための基本マナーの習得。		
7	宿泊オリエンテーション		コミュニケーション能力を習得し、円滑に対人関係を結ぶ		
8	宿泊オリエンテーション		人から信頼される為に、主体的に物事を考え行動に移す		
9	オリエンテーション振り返り				
10	LESSON3 言葉遣い①「1-2 OK行動、3-1 敬語、3-2 敬語のテクニック、3-3 気になる日本語、3-4 よく使う接客用語」		職業人として言葉の使い方を学び、表現できる。		
11	LESSON3 言葉遣い②「1-2 OK行動、3-1 敬語、-2 敬語のテクニック、3-3 気になる日本語、3-4 よく使う接客用語」		職業人としての言葉の使い方を学び、表現できる。		
12	LESSON1 ビジネスパーソンとは① 「1-4働く心構え」		『9つの意識』を理解し、学園生活での行動にも活かせるようにする。加えて、正しい価値観・職業観を学ぶ。		
13	LESSON1 ビジネスパーソンとは② 「1-4働く心構え」		『9つの意識』を理解し、学園生活での行動にも活かせるようにする。加えて、正しい価値観・職業観を学ぶ。		

14	LESSON1 ビジネスパーソンとは③ 「1-4働く心構え」	『9つの意識』を理解し、学園生活での行動にも活かせるようにする。加えて、正しい価値観・職業観を学ぶ。
15	クラス目標・個人目標振り返り LESSON6 「6-4 コンプライアンスとは、6-5 公私の区別、6-10 SNSの使い方とマナー」	守るべき行動規範を理解し、社会の一員としてモラルを守って生活することができる。
16	LESSON4 来客対応① 「4-1 方向や商品の示し指し、4-2 案内誘導、4-3 飲み物の提供、4-4 物の授受、4-5 お会計、4-6 お出迎え・お見送り」	接遇リテラシーを習得し、実務実習で実践する。
17	LESSON4 来客対応② 「4-1 方向や商品の示し指し、4-2 案内誘導、4-3 飲み物の提供、4-4 物の授受、4-5 お会計、4-6 お出迎え・お見送り」	接遇リテラシーを習得し、実務実習で実践する。
18	LESSON5 電話対応①「5-1 基本、5-2 実施フロー、5-3 こんなときどうする？、5-4 予約の受け方、5-5 アポイントメントの受け方、6-11 クレーム対応」	接遇リテラシーを習得し、就職後に実践できるようにする。
19	LESSON5 電話対応②「5-1 基本、5-2 実施フロー、5-3 こんなときどうする？、5-4 予約の受け方、5-5 アポイントメントの受け方、6-11 クレーム対応」	接遇リテラシーを習得し、就職後に実践できるようにする。
20	LESSON6 ビジネスパーソンとしてのマナー①「6-6 頂き物の取り扱い、6-7 共有スペースでのマナー、6-8 名刺交換」	ビジネスパーソンとしての基本マナーを学び、就職後に実践できるようにする。
21	LESSON6 ビジネスパーソンとしてのマナー②「6-6 頂き物の取り扱い、6-7 共有スペースでのマナー、6-8 名刺交換」	ビジネスパーソンとしての基本マナーを学び、就職後に実践できるようにする。
22	実務実習の振り返り	
23	LESSON6 ビジネスパーソンとしてのマナー③「6-9 手紙の書き方」	ビジネスパーソンとしての基本マナーを学び、就職後に実践できるようにする。
到達目標	職業人を目指すうえで、学んだ知識・技術そして心構えを実践し、相手からの信頼を得られることが出来る。	
評価方法	実務実習・学外実習等における実習指導者の評価及び個人目標振り返りによる自己評価と、それに基づく担任面談の結果による。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない	
テキスト	ビジネスマナーテキスト	

学科	職業実践専門課程 ビューティーアーティスト科	担当教員	近田		
科目名 (授業名)	表現技術（展示授業）				
開講年度	2026年度	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	演習	必修・選択の 別	必修	単位数 (時間数)	1 (15)
教育目標・ね らい	化粧品ブランドに所属するゲスト講師をまねき、講義・デモスト・実習を通して、各ブランドのコンセプトや製品特性への理解を深め、ブランドの世界観を踏まえたメイクアップ表現力の向上を目的とする。				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1	CLARINS 化粧品ブランド実習		実際に化粧品に触れ、使用しながらブランドのコンセプトや製品を理解し、実習を通して、学んだ内容をメイク表現として実技に活かす。		
2	LUNASOL 化粧品ブランド実習		実際に化粧品に触れ、使用しながらブランドのコンセプトや製品を理解し、実習を通して、学んだ内容をメイク表現として実技に活かす。		
3	ETVOS 化粧品ブランド実習		実際に化粧品に触れ、使用しながらブランドのコンセプトや製品を理解し、実習を通して、学んだ内容をメイク表現として実技に活かす。		
4	Celvoke 化粧品ブランド実習		実際に化粧品に触れ、使用しながらブランドのコンセプトや製品を理解し、実習を通して、学んだ内容をメイク表現として実技に活かす。		
5	THREE 化粧品ブランド実習		実際に化粧品に触れ、使用しながらブランドのコンセプトや製品を理解し、実習を通して、学んだ内容をメイク表現として実技に活かす。		
到達目標	ブランド授業を通して、化粧品ブランドのコンセプトや製品背景への理解を深めるとともに、実際に化粧品に触れ、使用しながら製品特性を体感的に学ぶ。さらに、実習を通して、ブランドの違いを比較し、新たな知識や発見を得ながら、メイクアップの技法と表現の幅を総合的に高める。				
評価方法	出席状況、受講態度、提出物評価を考慮して成績評価する （・メイク写真の提出状況・実習への取り組み姿勢、協調性）				
テキスト	プリント				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は18年以上の化粧品会社専属メイクアップアーティストとしての経験を活かし、個性を引き立て、なりたいイメージに合わせたメイク提案と、施術者自身で再現できるメイクアップ方法についての授業を行う。				

学科	職業実践専門課程 ビューティアーティスト科	担当教員	石川		
科目名 (授業名)	ファッション学(色彩学)				
開講年度	2026年度	学 年	1学年	実施時期	通年
授業形態	講義	必修・選択の 別	必修	単位数 (時間数)	8 (45)
教育目標・ねらい	AFT色彩検定3級及び2級の内容を通して、色彩に対する興味と理解を深め、 将来の職業に役に立つ色彩の知識とセンスを修得する。				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1	検定内容の説明・授業の進め方・目標設定 色彩心理テスト・カラートランプ作成		・検定の内容と授業の目的を理解し、目標を設定する。 ・色彩心理テストを通して色に興味を持ち楽しく学		
2	色の分類と三属性・PCCS・カラーカードゲーム		・検定合格に必須となるPCCSの基本を理解する。 ・カラーカードを用いたゲームを通して色を判断で きるようにする。		
3	色はなぜ見えるのか?・眼の仕組み・照明と色の見え方		・色が見えるメカニズムを理解し、色に対する興味 を持つ。 ・眼の仕組みを理解する。		
4	三原色と混色・色の対比と同化		・三原色と二つの混色の違いを理解し、混色によっ て色を作り出せる知識を修得する。 ・色の対比と同化を理解する。		
5	配色・配色の基本的な技法・配色イメージ		・配色の基本的な考え方を理解する。 ・配色技法を理解し、日常の中から見つけられるよ うにする。		
6	色彩検定3級範囲の確認テスト・色のユニバーサルデザ イン		・色彩検定3級範囲の知識を確認する。 ・日常にあるユニバーサルデザインについて色の活 用方法を知る。		
7	光と色・ビジュアルデザインの色彩・メディアデザインの 色彩		・視細胞について理解する。 ・照明について理解する。 ・ビジュアルやメディアの仕事で活用されている色		
8	マンセル表色系・カラーカードゲーム		・検定2級合格に必須となるマンセル表色系につい て理解するとともにPCCS表色系との違いについて も整理する。		
9	色の視覚効果・色の心理効果・色彩調和・自然の秩序か らの色彩調和		・色の視覚効果と心理効果について理解するととも に3級で学んだ内容との違いを整理する。 ・色彩検定2級に出題される配色技法を理解し、そ		
10	イメージ別配色法・配色演習		・配色とイメージを結びつけ、イメージをもとに PCCSカラーカードで配色できるようになる。 ・色彩検定2級の配色を演習を通して理解する。		
11	ここまでの範囲の小テスト・配色演習		・ここまでの範囲の理解度を確認する。 ・2級テキストの配色を演習を通して理解する。		
12	ファッションの色彩と配色・配色演習		・ファッションで活用されている色彩の知識を理解 する。 ・2級テキストの配色を演習を通して理解する。		
13	インテリア・景観色彩・色名		・インテリアや景観で活用されている色彩の知識を 理解する。 ・景観に使用されている色彩の知識を理解する。		
14	色彩検定2級受験対策		・色彩検定2級受験対策問題を通して、検定の出題 傾向に慣れるとともに身に付けた知識の確認をす る。		
15	色彩検定2級受験対策		・色彩検定2級受験対策問題を通して、検定の出題 傾向に慣れるとともに身に付けた知識の確認をす る。		
16	検定振り返り・答え合わせ・解説		・色彩検定の解答・解説を通して自身の可否を確認 するとともに、自身に身につけた色彩の知識を確認 する。		

到達目標	・ファッション等における配色の基本を身につける。 ・色彩理論を理解し、他者に伝えることができるようになる。
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80％、小テスト20％）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。
テキスト	AFT色彩検定3級及び2級公式テキスト AFTカラーカード 対策プリント(講師側で製作したもの)
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は10年以上の美容サロン勤務及び4年以上のデザイン事務所勤務の経験を踏まえ、ビューティアーティストとして身につけるべき色彩構成と、それに基づく具体的提案ができるようにする

学科	職業実践専門課程 ビューティーアーティスト科	担当教員	近田		
科目名 (授業名)	ファッション学(ブランド授業)				
開講年度	2026年度	学 年	1学年	実施時期	通年
授業形態	演習	必修・選択の 別	必修	単位数 (時間数)	8 (10)
教育目標・ねらい	化粧品業界で活躍されているゲスト講師を招いて、企業説明からデモンストレーションを行い、化粧品に触れ、ブランドコンセプトと化粧品知識、メイク技法を習得してメイクアップの視野を広げる				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1	ブランドコンセプト、化粧品知識を学び、化粧品に触れ、ブランド知識やメイクアップ技法を習得する。		ブランド授業を通して化粧品ブランドのコンセプトや製品背景への理解を深めるとともに、実際に化粧品に触れ、使用しながら製品特性を理解する。ブランドの違いを比較し、新たな知識や発見を通じて、メイクアップの技法と表現の幅を高める。		
2	ブランドコンセプト、化粧品知識を学び、化粧品に触れ、ブランド知識やメイクアップ技法を習得する。		ブランド授業を通して化粧品ブランドのコンセプトや製品背景への理解を深めるとともに、実際に化粧品に触れ、使用しながら製品特性を理解する。ブランドの違いを比較し、新たな知識や発見を通じて、メイクアップの技法と表現の幅を高める。		
3	ブランドコンセプト、化粧品知識を学び、化粧品に触れ、ブランド知識やメイクアップ技法を習得する。		ブランド授業を通して化粧品ブランドのコンセプトや製品背景への理解を深めるとともに、実際に化粧品に触れ、使用しながら製品特性を理解する。ブランドの違いを比較し、新たな知識や発見を通じて、メイクアップの技法と表現の幅を高める。		
4	ブランドコンセプト、化粧品知識を学び、化粧品に触れ、ブランド知識やメイクアップ技法を習得する。		ブランド授業を通して化粧品ブランドのコンセプトや製品背景への理解を深めるとともに、実際に化粧品に触れ、使用しながら製品特性を理解する。ブランドの違いを比較し、新たな知識や発見を通じて、メイクアップの技法と表現の幅を高める。		
5	ブランドコンセプト、化粧品知識を学び、化粧品に触れ、ブランド知識やメイクアップ技法を習得する。		ブランド授業を通して化粧品ブランドのコンセプトや製品背景への理解を深めるとともに、実際に化粧品に触れ、使用しながら製品特性を理解する。ブランドの違いを比較し、新たな知識や発見を通じて、メイクアップの技法と表現の幅を高める。		
到達目標	化粧品業界、化粧品ブランドにより詳しくなることでブランドの特徴を知り、ブランドならではの知識やメイクアップ技法を習得し、メイク道具のセレクトやメイク技術の幅を広げる。				
評価方法	出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	ブランド資料				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は18年以上の化粧品会社専属メイクアップアーティストとしての経験を活かし、個性を引き立て、なりたいイメージに合わせたメイク提案と、施術者自身で再現できるメイクアップ方法についての授業を行う。				

学科	職業実践専門課程 ビューティーアーティスト科	担当教員	Reina		
科目名 (授業名)	ファッション学(特殊メイク)				
開講年度	2026年度	学 年	1学年	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択の 別	必修	単位数 (時間数)	8 (18)
教育目標・ね らい	フェイスペイント、ボディペイントの技法を習得する 神話ができた歴史背景や物語、キャラクターを理解し、表現することができる 神話がテーマのヘアメイクフォトコンテストへの入賞を目指す				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1	神話とその歴史背景や物語について学ぶ ペインティングに使用する材料の使い方を知る デッサンシートの描き方を学ぶ		ペインティング等について理解することができる。		
2	ヘアメイク実習 ヘアー、メイク、衣装、小物のバランスを学ぶ		ヘアー、メイク、衣装、小物のバランスについて理 解することができる。		
3	作品制作 作品の撮影を通し、ヘアメイクの感性を学ぶ		ヘアメイクの感性について理解することができる。		
到達目標	各グループごとにテーマに合った作品を作成し、フォトコンテストに提出する 全国規模で行われるフォトコンテストの入賞を目指す				
評価方法	デッサン画、ポートフォリオの提出、出欠状況、撮影写真のクオリティ				
テキスト	プリント（神話について、デッサンシート）				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は自ら主宰する美容サロンでの実績に加え、各種メ ディアでのグラビア、化粧品会社の広告宣伝等におけるメイクアップの経験により培った特殊メイ ク、ボディペイント等に関する高度な知識と技術を伝える				

学科	職業実践専門課程 ビューティーアーティスト科	担当教員	近田		
科目名 (授業名)	ファッション学(トレンドメイク)				
開講年度	2026年度	学 年	1学年	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択の 別	必修	単位数 (時間数)	8 (12)
教育目標・ね らい	メンズメイク講義やメイク業界で活躍されているゲスト講師を招き、講義とデモンストレーションを行い、考え方から知識を学び、メイク技法を習得してメイクアップの視野を広げる				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1	春のトレンドメイク		春トレンドの傾向を理解し、メイクで表現できるようになる。		
2	夏のトレンドメイク		夏トレンドの傾向を理解し、メイクで表現できるようになる。		
3	秋のトレンドメイク		秋トレンドの傾向を理解し、メイクで表現できるようになる。		
4	冬のトレンドメイク		冬トレンドの傾向を理解し、メイクで表現できるようになる。		
到達目標	トレンドの知識を理解して、メイクアップでトレンドを上手に取り入れ、表現出来るようになる。				
評価方法	出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	トレンド資料				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は18年以上の化粧品会社専属メイクアップアーティストとしての経験を活かし、個性を引き立て、なりたいイメージに合わせたメイク提案と、施術者自身で再現できるメイクアップ方法についての授業を行う。				

学科	職業実践専門課程 ビューティーアーティスト科	担当教員	小澤 孝俊		
科目名 (授業名)	ファッション学(パーソナルカラーメイク)				
開講年度	2026年度	学 年	1学年	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択の 別	必修	単位数 (時間数)	8 (12)
教育目標・ね らい	パーソナルカラー理論を理解し、個々の肌・瞳・髪の色に調和したメイクアップを実践できる力を養う。さらに、顧客に対して適切な色提案とメイク提案ができる応用力を身につける。				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1	パーソナルカラーの基礎理論を理解し、ベースメイクおよびポイントメイク（アイメイク、チーク、リップ）における基本技術を習得する。		パーソナルカラーの基礎理論を理解し、ベースメイクおよびポイントメイクができるようになる。		
2	パーソナルカラーの基礎理論を理解し、ベースメイクおよびポイントメイク（アイメイク、チーク、リップ）における基本技術を習得する。		パーソナルカラーの基礎理論を理解し、ベースメイクおよびポイントメイク		
3	パーソナルカラーの観点から似合わせの基本を理解し、リップカラーを中心とした色選定とメイク表現の技術を習得する。		リップカラーを中心とした色選定とメイク表現の技術ができるようになる。		
4	パーソナルカラーの観点から似合わせの基本を理解し、リップカラーを中心とした色選定とメイク表現の技術を習得する。		リップカラーを中心とした色選定とメイク表現の技術ができるようになる。		
5	眉毛デザインの基本理論を理解し、パーソナルカラーに基づく色選定を学ぶ。調和を崩す「はずし」のテクニックを取り入れ、印象をコントロールする応用的なメイク表現を習得する。		応用的なメイク表現をすることができる。		
6	眉毛デザインの基本理論を理解し、パーソナルカラーに基づく色選定を学ぶ。調和を崩す「はずし」のテクニックを取り入れ、印象をコントロールする応用的なメイク表現を習得する。		応用的なメイク表現をすることができる。		
到達目標	パーソナルカラーの理論を理解し、眉毛デザインおよび色選定を適切に行うことができる。さらに、意図的にパーソナルカラーから外す「はずし」の技法を用いて、個々に合わせた印象コントロールとメイク提案を実践できる。				
評価方法	課題作品より100点満点で評価する。なお、所定授業時数(全体の2/3)を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	配布資料、参考資料				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は20年以上に及ぶカナダ・アメリカの美容サロン勤務経験を活かし、国内でも各種媒体における多くのヘアメイク・メイクアップの実績を持つ。確かな知識と技術に基づく様々なメイクアップ方法についての授業を行う				

学科	職業実践専門課程 ビューティーアーティスト科	担当教員	牧野 克彦		
科目名 (授業名)	ファッション学（フォト）				
開講年度	2026年度	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択の 別	必修	単位数 (時間数)	8 (5)
教育目標・ねらい	カメラの基礎的操作（絞り、シャッタースピード、ISO感度など）を理解し、適切に設定できる。 作品撮りの準備、撮影を理解する				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1	カメラの基礎の説明 ・絞り、シャッタースピード、ISO感度の解説と実習		プリント配布		
2	撮影 ・撮影 撮影機材の設営、写真機の使用確認、 ・構図構成の説明・実演		相モデル		
到達目標	カメラの基礎的操作ができ、フォトコンテスにおいて自身で撮影することができる				
評価方法	授業態度、出席状況、フォトコンテスト撮影および作品提出				
テキスト	プリント				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：フォト作品にて業界有数の有識者から即戦力となるメイクアップアーティスト養成授業を行う				

学科	職業実践専門課程 ビューティアーティスト科	担当教員	唐沢・山田		
科目名 (授業名)	ファッション学（学園祭準備）				
開講年度	2026年度	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	演習	必修・選択の 別	必修	単位数 (時間数)	8 (18)
教育目標・ねらい	実際にお客様を担当することで、憧れだった職業を現実的に体感し、店舗設営・運営・接客や技術向上・営業を理解する				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1～2	学園祭技術ブース内容決め		お客様の目線に立ち喜んでいただける技術内容を決定する		
3～9	技術接客練習		お客様の要望を引き出し、技術模擬店にて要望に応えられる技術や接客が提供出来るようになる		
10～12	店舗設営・開店準備		テーマに沿った店舗設営・事前準備ができる		
13～18	店舗運営本番		店舗運営を行い、目標地に沿った結果を出すことが出来る		
到達目標	実際にお客様を担当することで、憧れだった職業を現実的に体感し、店舗設営・運営・接客や技術向上・営業を出来るようになる				
評価方法	課題作品により100点満点で評価する。なお、所定授業時数(全体の2/3)を下回る学生は評価対象としない				
テキスト	プリント				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	職業実践専門課程 ビューティーアーティスト科	担当教員	星野 丈二		
科目名 (授業名)	学外実習				
開講年度	2026年度	学 年	1	実施時期	通年
授業形態	実習	必修・選択の 別	必修	単位数 (時間数)	2 (60)
教育目標・ねらい	① 業界理解を深める為、実際の現場で業務の流れを学ぶ ② 主体的に仕事に取り組む姿勢を学び、仕事の優先順位を学ぶ				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1	【学外実習①】 事前準備・ロールプレイ 4時間 この実習を通して具体的な就職先(企業・組織)を明確にする 1年次： 5 6 時間 (1 日8時間勤務) 実習先：美容サロン(ヘアメイク部門)・ネイルサロン・ブライダルサロン等		希望職種と業務を理解する 校外学習を通して今後の学習に必要なことを明確にする		
到達目標	1. 現場体験を通してビューティ業界に携わる自己の職業観・職業意識を確立する 2. 学内で学んだ知識と技術を活かし、現場で「お客様」にはならず、どんな役割でもきちんとこなし、スタッフに愛され、重宝される存在として、存在価値を認めてもらえる人間となる				
評価方法	実習先からの評価と本人評価をもとに担任面談を通して学外実習の最終評価を行う。なお所定授業時間数(全体の4/5)を下回る学生は評価を受けることができない				
テキスト	配布プリント				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	職業実践専門課程 ビューティーアーティスト科	担当教員	山田・唐沢・境田・星野		
科目名 (授業名)	学内コンテスト				
開講年度	2026年度	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択の 別	選択	単位数 (時間数)	1 (15)
教育目標・ね らい	美翔祭・匠すと(校内コンテスト)をとおして協調性・協同・競争して一つの物事を成し遂げること で業界理解や社会性を養い、学生全体が今後の業界で活躍できる力を養う				
授業回	学習内容		各回の到達目標		
1～6	《美翔祭》 自分たちで全て0から作りヘアショーで表現・運営する ことが出来る		テーマを共有して、本番の舞台で観客を 入れた際に、自身の役割を達成できるよ う行動ができる		
7～15	《匠すと》 校内コンテストで1年次の最終成果物を作成し、研鑽し てきた技術を競う		出場競技ごとにイメージした作品を作り 上げ、成果物として提出・参加をする		
到達目標	美翔祭・匠すと(校内コンテスト)をとおして協調性・協同・競争する姿勢の大切さを理解 し、今後の業界で活躍できる力をつける				
評価方法	行事ごとでの成果物に対し評価を行う。なお、所定授業時数(全体の2/3)を下回る学生は評 価対象としない				
テキスト	参考資料・配布資料				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦 力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				